

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 9日現在

機関番号：32524

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21590683

研究課題名（和文） 親子相互作用アセスメント尺度 JNCATS に基づく研究・実践支援ネットワークの構築

研究課題名（英文） Construction of research and practice support network for Japanese Nursing Child Assessment Teaching Scale (JNCATS) users.

研究代表者

寺本 妙子 (TERAMOTO TAEKO)

日本橋学館大学・リベラルアーツ学部・講師

研究者番号：20422488

研究成果の概要（和文）：

本研究は、親子の関係性の質をアセスメントする尺度である JNCATS (Japanese Nursing Child Assessment Teaching Scale) の妥当性（適切さ）に関する研究（研究1）と、JNCATS に基づく研究・実践活動を支援するネットワークの構築（研究2）から構成された。

研究1では、親子相互作用分析で用いられる手法（マイクロ分析・時系列解析）を利用して、JNCATS の併存的妥当性が検討された。

研究2では、専用のウェブ・サイトを立ち上げ、JNCATS に関する情報発信を試みた。同時に、講習会、交流集会、コンサルテーションをおこない、親子を支援する様々な領域の専門家をつなぐネットワーク活動も展開した。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of the present study was to show evidence for the validity of the Japanese Nursing Child Assessment Teaching Scale (JNCATS) by utilizing micro analysis and sequential analysis of mother-child teaching interactions (Study 1).

Constructing network for JNCATS users and professionals for Infant Mental Health was also attempted through workshops, meetings, and website (Study 2).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：社会医学・公衆衛生学・健康科学

キーワード：親子の関係性, 親子相互作用, 関係性のアセスメント, 日本語版 NCATS, NCATS, 専門家支援ネットワーク, ミクロ分析, 時系列解析

1. 研究開始当初の背景

乳幼児とその家族を対象とする乳幼児精神保健 (Infant Mental Health: IMH) においては、親子の心身の健康を守り育てることを目指し、早期の関係性に焦点化した支援が国内外で試みられてきた¹⁾。そこでは、早期の親子の関係性が、子どもの後の発達に大きく影響を与えることから、それをいかにアセスメントするかが課題とされてきた。

親子の関係性のアセスメント方法には、養育者から報告を求めるもの (質問紙, インタビュー) もあれば、親子の相互作用を第三者が観察するもの (行動観察) もある。NCATS (Nursing Child Assessment Teaching Scale)²⁾は、後者のタイプのアセスメント尺度であり、米国のワシントン大学の K. Barnard 博士らによって開発され、米国内外で広く普及している。その日本語版³⁾は、東京医科歯科大学の廣瀬たい子博士らによって開発が進められた。これまでに、尺度としての信頼性 (安定性・一貫性) の検討、日本人母子のデータベースの整備⁴⁾といった、尺度を「つくる」研究が展開されてきた。

しかしながら、まだ取り組むべき課題が残されており、それは、日本語版の妥当性 (適切さ) の検討、および、尺度を「つくる」段階から「つかう」段階へと発展させることであった。そこで、本研究では、これらの課題、すなわち、JNCATS の妥当性に関する研究 (研究 1) と、JNCATS を研究・実践において活用する支援体制の構築を目指す研究・実践支援ネットワークの構築 (研究 2) に取り組んだ。

研究 1 では、親子相互作用の代表的分析手法であるミクロ分析と時系列解析を利用して、親子相互作用の特徴のひとつである「随伴性」の抽出を試み、JNCATS によるアセスメント結果との関連性を吟味することで、JNCATS の妥当性の検討を試みた。

研究 2 では、JNCATS の使用に必要とされる訓練体制の整備と訓練後のフォロー体制の整備・充実を目指した。科学的行動観察に基づく本尺度では、利用者の厳密な訓練が求められ、それが、尺度普及の際の難点として指摘されている⁵⁾。したがって、訓練体制とその後のフォロー体制を整備・充実させることで、本尺度の本格的活用が促進されると考えられた。また、IMH は様々な専門家の連携が求められる学際的領域でもあり、JNCATS を通じた人的ネットワークの構築も、研究・実践の促進に貢献すると考えられた。そこで、

JNCATS を用いた研究・実践支援ネットワークの構築も試みた。

まとめると、研究 1 は JNCATS という尺度を「つくる」作業の最終段階であり、研究 2 はそれを「つかう」ための基盤整備であった。このような試みは、IMH に従事する専門家が JNCATS を効果的に使用することを促進し、ひいては、多くの親子の心身の健康に寄与すると期待できた。

2. 研究 1: JNCATS の妥当性に関する研究

(1) 研究の目的

① JNCATS の信頼性・妥当性

JNCATS は、乳幼児期の親子の関係性をアセスメントする尺度であり、養育者側の得点と子ども側の得点が得られる。これまでに、その信頼性についての報告はあったが⁴⁾、妥当性の検討は十分ではなかった。原版 NCATS の妥当性については、類似する尺度 (Home Observation Measure of the Environment: HOME)⁶⁾との相関が検討され、併存的妥当性が報告されていた。JNCATS の併存的妥当性に関しても、同様の手続きでの検討が望まれるが、現在のところ我が国では HOME に相当する尺度が見当たらず、代替手法が求められた。親子の関係性は、親子の言語的・非言語的やりとり (相互作用) として捉えられる。親子相互作用に関する科学研究における代表的手法としては、ミクロ分析 (micro analysis) と時系列解析 (sequential analysis) が挙げられ⁷⁾、これらの手法が、ここで求められる代替手法になると考えられた。

② ミクロ分析・時系列解析

ミクロ分析とは、秒単位で親子の行動を組織的に観察し、設定された行動カテゴリーの生起について、その開始時刻と終了時刻を記録する手法である。結果として、各行動カテゴリーの生起頻度 (そのカテゴリーが生起した回数) と生起確率 (そのカテゴリーの全観察時間における割合) が得られる。時系列解析とは、このミクロ分析の結果を利用して、行動カテゴリー間の時間的要素 (生起の順序やタイミング) を抽出する手法である。結果として、親子の行動間の対応 (一定のタイミングにおける先行する行動と後続する行動の対応) の件数が抽出され、その対数オッズ比が算出される。一般に、尺度の併存的妥当性に関する研究においては、類似した尺度得点

間の相関が検討されるが、測定しようとする対象（構成概念）を異なる手法で測定した行動的変数（外部基準）との相関の検討も必要とされる⁸⁾。この外部基準となる行動的変数を、マイクロ分析と時系列解析が提供すると考えられた（生起確率および対数オッズ比）。

③変数間の関連性

ここで扱う構成概念は、JNCATSにおける親子の関係性の捉え方を反映させる必要があると考えられた。JNCATSにおける親子の関係性の質は、養育者が教えながら子どもと遊ぶやりとりの様子（親子遊び場面の相互作用）における肯定的で円滑な性質として捉えられる^{2, 3)}。肯定的で円滑な相互作用においては、親子ともに積極的に参加する「親和」（Engagement）の状態にあり、それとは逆の「嫌悪」（Disengagement）の状態ではないとされる。また、互いにタイミングよく即時に、且つ、内容的にも適切に反応する「随伴性」（Contingency）も発揮されると考えられる。したがって、ここで検討すべき構成概念を、相互作用における積極性（「親和」）と非積極性（「嫌悪」）、および、「随伴性」とした。

JNCATSでは、「親和」と「随伴性」は高得点に、「嫌悪」は低得点として反映される。一方、マイクロ分析では、「親和」と「嫌悪」は操作的に定義され（行動カテゴリーとして設定され）、各々の生起確率が算出される。時系列解析では「随伴性」が操作的に定義され（親子の随伴性パターンとして設定され）、その対数オッズ比が算出される。この生起確率と対数オッズ比が、JNCATSの併存的妥当性を検討する際の外部基準とみなされ、JNCATS得点との相関が検討された。

これらの変数間の関連性は次のように考えられた。まず、円滑な親子遊び場面では、養育者は子どもを積極的に参加させようと働きかけると予想された。すなわち、子どもの「親和」の生起確率とJNCATS養育者得点は正の相関を示し（仮説1）、子どもの「嫌悪」の生起確率とJNCATS養育者得点は負の相関を示す（仮説2）と考えられた。また、子どもが積極的に参加していれば、養育者が子どもの参加を促す随伴的働きかけは省力化され、子どもの「親和」に対する養育者の随伴的対応の対数オッズ比とJNCATS養育者得点は負の相関を示す（仮説3）と予想された。その反対に、子どもが積極的に参加せず「嫌悪」の状態であれば、随伴的に対応してなだめ、子どもとの遊びを継続させようとはたらかけると考えられた。すなわち、子どもの「嫌悪」に対する養育者の随伴的対応の対数オッズ比とJNCATS養育者得点は正の相関を示す（仮説4）と予想された。更に、円滑な親子遊び場面では、養育者の行動に対する子どもの反応は随伴的で反応がよいと予想され、養育者の行

動に対する子どもの随伴的対応の対数オッズ比とJNCATS子ども得点は正の相関を示す（仮説5）と考えられた。

まとめると、仮説1と2はマイクロ分析による子どもの「親和」「嫌悪」とJNCATS母親得点との対応、仮説3と4は母親の随伴性に関する時系列解析結果とJNCATS得点との対応、仮説5は子どもの随伴性に関する時系列解析結果とJNCATS得点との対応を扱うものであった。

④本研究の目的

本研究の目的は、以上の仮説1～5を検証し、マイクロ分析および時系列解析結果とJNCATS得点との対応を見出すことを通じて、JNCATSの併存的妥当性の根拠を示すことであった。

(2) 研究の方法

①対象

本研究の対象は、JNCATSデータベースに關する先行研究⁴⁾に参加した53組の健康な母子であった。母親の年齢は23～41歳（平均33.09歳、SD = 3.81）、子どもの月齢は5～33か月（平均12.83か月齢、SD = 7.09）であった（男児29名、女児24名）。

②JNCATS

JNCATS（適用月齢：0～36か月）は、所定の訓練を受けた観察者が、母子の遊び場面における相互作用について観察し、母子の行動に関する73項目について該当するか否かを判定する尺度である。該当した項目数の合計が得点となり、円滑な母子相互作用は高得点となる。母親側の下位尺度として、「子どものCueに対する感受性（Sensitivity to Cues）」、「子どもの不快な状態に対する反応（Response to Child's Distress）」、「社会情緒的発達の促進（Social-Emotional Growth Fostering）」、「認知発達の促進（Cognitive Growth Fostering）」の4つ、子ども側の下位尺度として、「Cueの明瞭性（Clarity of Cues）」、「養育者に対する反応性（Responsiveness to Caregiver）」の2つがあり、それぞれ得点化される。随伴性についても個別に得点化される。本研究では、先行研究⁴⁾にて得られた母子相互作用場面（10分以内）の録画データと、それをJNCATSでアセスメントした得点データを二次利用した（本研究の実施に関しては、東京医科歯科大学医学部倫理審査委員会の許可を得た）。

③マイクロ分析

母親のカテゴリーとして、「言語的親和（MV）」（子どもへの肯定的言葉かけ）と「非言語的親和（MN）」（子どもへの非言語的な肯

定的はたらしかけ), 子どものカテゴリーとして, 「親和 (CE)」(相互作用への積極的参加) と「嫌悪 (CD)」(相互作用への消極的参加) を設定し, 各々の開始時刻と終了時刻を秒単位で記録した (Mangold 社 INTERACT 8 を使用)。各カテゴリーについて生起確率が算出された。全データの 15% についての Cohen の κ 係数は .70 以上であり, 分析結果の信頼性が確認された。

④時系列解析

母親カテゴリー (MV, MN) と子どもカテゴリー (CE, CD) の, 一定のタイミングにおける対応を随伴性の指標として抽出した。子どもカテゴリーが先行し, 母親カテゴリーが後続するパターン (CE-MV, CE-MN, CD-MV, CD-MN) を母親の随伴性, その逆に, 母親カテゴリーが先行し, 子どもカテゴリーが後続するパターン (MV-CE, MN-CE, MV-CD, MN-CD) を子どもの随伴性の指標とした。カテゴリー間のタイミングは, JNCATS における随伴性の定義を踏襲して 5 秒または 10 秒とした (分析には, GSEQ 5.0⁷⁾ を使用)。各随伴性パターンについて, 対数オッズ比が算出された。

⑤統計処理

仮説 1~5 に示された変数 (JNCATS 得点, 生起確率, 対数オッズ比) について, スピアマンの順位相関係数を算出した (SPSS 15.0 J for Windows を使用)。なお, 本研究ではサンプル数が比較的小さいため, 検定結果の有意性のみではなく, 効果量についても吟味した (ρ が |.10 ~ .30| であれば小, |.30 ~ .50| であれば中, |.50| 以上であれば大)⁹⁾。また, 検定の繰り返しに対しては, ホルムーボンフェローニの方法による補正¹⁰⁾をおこなった。

(3) 研究成果

①子どもの「親和」・「嫌悪」と JNCATS 母親得点

JNCATS 母親得点と CE および CD の生起確率に関して, 相関係数を算出した。CE とは弱い正の相関 ($\rho = .22$, 効果量 = 小, n. s.) が認められ, 仮説 1 を支持するとみなされた。一方, CD とは中程度の負の相関 ($\rho = -.34$, 効果量 = 中, $p < .05$) が認められた。CD に関する検定結果の有意性に着目して, 母親の下位尺度に関して相関係数を算出した (表 1)。「子どもの不快な状態に対する反応」を除く下位尺度において, 弱~中程度の負の相関が認められた ($\rho = -.40 \sim -.12$, 効果量 = 小~中, $p < .05$ および n. s.)。この結果は仮説 2 を支持するとみなされた。

②母親の随伴性と JNCATS 母親得点

JNCATS 母親得点 (総合得点と随伴性得点)

と母親の随伴性パターンの対数オッズ比の相関係数を算出した (表 2)。CE に対する母親の随伴性 (CE-MV と CE-MN) については, 弱い負の相関 ($\rho = -.22 \sim -.10$, 効果量 = 小, n. s.) が認められ, 仮説 3 を支持すると考えられた。CD に対する母親の随伴性 (CD-MV と CD-MN) については, 中程度の正の相関 ($\rho = .33$, 効果量 = 中, n. s.) がみられ, 仮説 4 を支持するとみなされた。

表 1. JNCATS 母親下位尺度得点と CD の生起確率についてのスピアマンの順位相関係数

JNCATS 母親下位尺度得点	CD (N = 53)		効果量
	ρ	(p)	
子どもの Cue に対する感受性	-.40	(.0031)*	中
子どもの不快な状態に対する反応	.04	(.7889)	-
社会情緒的発達促進	-.12	(.4003)	小
認知発達促進	-.37	(.0066)*	中
母親随伴性	-.35	(.0099)*	中

* $p < .05$ (Holm-Bonferroni の方法により補正)

表 2. JNCATS 母親得点と母親随伴性パターンの対数オッズ比についてのスピアマンの順位相関係数

JNCATS 母親得点	CE に対する母親の随伴性 (N = 47)					
	CE-MV			CE-MN		
	ρ	(p)	効果量	ρ	(p)	効果量
母親総合	.03	(.8453)	-	-.10	(.4868)	小
母親随伴性	-.16	(.2685)	小	-.22	(.1302)	小

JNCATS 母親得点	CD に対する母親の随伴性 (N = 53)					
	CD-MV			CD-MN		
	ρ	(p)	効果量	ρ	(p)	効果量
母親総合	.05	(.7434)	-	.33	(.0172)	中
母親随伴性	.04	(.7610)	-	.33	(.0159)	中

表 3. JNCATS 子ども得点と子ども随伴性パターンの対数オッズ比についてのスピアマンの順位相関係数

JNCATS 子ども得点	子どもの随伴性 CE					
	MV-CE (N = 35)			MN-CE (N = 42)		
	ρ	(p)	効果量	ρ	(p)	効果量
子ども総合	.20	(.2375)	小	-.03	(.8407)	-
子ども随伴性	.20	(.2603)	小	.00	(.9971)	-

JNCATS 子ども得点	子どもの随伴性 CD					
	MV-CD (N = 45)			MN-CD (N = 50)		
	ρ	(p)	効果量	ρ	(p)	効果量
子ども総合	.10	(.5033)	小	.14	(.3447)	小
子ども随伴性	.13	(.4000)	小	.06	(.7037)	-

③子どもの随伴性と JNCATS 子ども得点

JNCATS 子ども得点 (総合得点と随伴性得点) と子どもの随伴性パターンの対数オッズ比の相関係数を算出した (表 3)。子どもの随伴性 CE (MV-CE と MN-CE) については, 弱い正の相関 ($\rho = .20$, 効果量 = 小, n. s.) が認められた。また, 子どもの随伴性 CD (MV-CD と MN-CD) についても, 弱い正の相関 ($\rho = .10 \sim .14$, 効果量 = 小, n. s.) がみられ, これらの結果は仮説 5 を支持すると考えられた。

④JNCATS の妥当性

以上の結果のとおり, 仮説 1~5 で設定された正および負の相関関係は予想どおりに認められた。これらの相関は常に強いとは限

らず、効果量としては小～中であったが、常に一貫した傾向にあり、マイクロ分析・時系列解析の結果と、JNCATS 得点との対応が見い出されたと結論付けることが可能であった。すなわち、両手法を用いて JNCATS の併存的妥当性の根拠を示すという本研究の目的が達成されたと判断された。

本研究では、JNCATS の併存的妥当性の根拠が示された。すなわち、この尺度による親子の関係性のアセスメントの適切さが示唆されたことになる。この知見に基づき、JNCATS を利用することで、早期の親子の関係性の理解が促進されると予想される。それは、効果的な IMH の実践に貢献すると期待できる。

3. 研究 2 : 研究・実践支援ネットワークの構築

(1) 研究の目的

研究 2 の目的は、JNCATS の訓練体制、および、訓練後のフォロー体制の整備と充実であった。同時に、学際的アプローチである IMH の様々な領域の専門家の人的ネットワークの構築も試みられた。

(2) 研究の方法

① JNCATS の訓練体制、および、訓練後のフォロー体制の整備・充実

JNCATS、および、その姉妹版ともいえる JNCAFS (Japanese Nursing Child Assessment Feeding Scale : 授乳・離乳食場面の親子相互作用アセスメント尺度) の訓練は、国内の大学の講義 (<http://jncast.cf-n.org/study>)、および、乳幼児保健学会

(<http://www.tmd.ac.jp/gradh/cfn/jaih/home.htm>) が主催する講習会事業にておこなわれた。本研究代表者である寺本は、この講習会に講師として参加し、JNCATS・JNCAFS の普及に努めた。また、両尺度の使用認定者に対する、研究・実践コンサルテーションもおこなった。そのテーマは以下のとおりであった。

- ・ 新生児集中治療室 (NICU) 入院児とそのケアを担当する看護師の相互作用についての研究
- ・ 口唇口蓋裂児の授乳における母子相互作用に関する研究
- ・ リスク要因を抱える母親の育児支援研究
- ・ 母子保護施設における入寮母子の関係性構築の促進
- ・ 地域療育センターにおける発達障がい児と養育者の関係性促進
- ・ 看護学生に対する教育コンテンツとしての使用促進
- ・ 産後ケアセンター職員 (助産師) の研修

② JNCATS を通じた研究・実践支援ネットワークの構築

JNCAST (Japanese Nursing Child Assessment Satellite Training : JNCATS と JNCAFS の訓練プログラム) に関する専用のホームページを立ち上げ、情報発信を試みた (<http://jncast.cf-n.org/>)。本尺度の説明、認定インストラクターの紹介、本尺度を用いた研究・実践の紹介、学びの場の紹介等の情報を提供した。

また、講習会期間中に交流集会 (JNCAST 講習会同窓会) を同時企画し、JNCATS・JNCAFS を活用した教育・研究・実践計画について議論し、意見・情報の交換を促す場を創った。これには、親子を支援する様々な領域の専門家 (看護師、保健師、助産師、精神科医師、小児歯科医師、臨床心理士、保育士、社会福祉士、特別支援学校教諭、看護系大学教員、発達心理学の研究者等) が参加し、領域を超えた人的ネットワークの形成が試みられた。

(3) 研究成果

JNCATS の訓練体制と訓練後のフォロー体制の整備・充実、および、研究・実践支援ネットワークの構築は、上記のとおり、概ね達成できたと考えられた。

4. まとめ

これまでの試みによって、JNCATS という尺度を「つくり」、「つかう」ための基盤形成が達成されたことになる。しかし、「つかう」ための研究・実践支援ネットワークは専門家に限定されたものであった。今後の展開としては、親子の関係性や IMH に関する知見・情報を一般市民や親予備群である若年層に発信し、社会で親子を見守り支える体制づくりが必要と考えられる。この試みは、文部科研 (平成 24~26 年度、基盤研究 (C)、課題名 : 親子相互作用査定尺度 JNCATS に基づく次世代センシティブ支援ネットワークの構築、研究代表者 : 寺本妙子) の助成を受けて展開する予定である。

引用文献

- 1) Zeanah, C. H., Jr., & Zeanah, P. D. (2009). The scope of infant mental health. In C. H. Zeanah, Jr. (Ed.), *Handbook of infant mental health 3rd ed.* New York: The Guilford Press. pp. 5-21.
- 2) Sumner, G., & Spietz, A. (1994). *NCAST: Caregiver/parent-child interaction teaching manual.* Seattle: NCAST Publications.
- 3) 廣瀬たい子 (監修) (2006). 養育者/親-子ども相互作用 : ティーチングマニュアル (日本語版) 東京 : NCAST 研究会.
- 4) 廣瀬たい子・寺本妙子 (監修) (2010). 日本語版 NCAST データ&ケースブック 東京 : 乳幼児保

健学会.

- 5) Miron, D., Lewis, M. L., & Zeanah, Jr., C. H. (2009). Clinical use of observational procedures in early childhood relationship assessment. In C. H. Zeanah, Jr. (Ed.) *Handbook of infant mental health 3rd ed.* New York: The Guilford Press. pp. 252-265.
- 6) Bradley, R. H., & Caldwell, B. M. (1978). Screening the environment. *American Journal of Orthopsychiatry*. **48**, 114-129.
- 7) Bakeman, R., Deckner, D. F., & Quera, V. (2006). Analysis of behavioral streams. In D. M. Teri (Ed.) *Handbook of research methods in developmental sciences*. Oxford, England: Blackwell. pp. 394-420.
- 8) 村上宣寛 (2006). 心理尺度のつくり方 京都: 北大路書房.
- 9) Cohen, J. (1988). *Statistical power analysis for the behavioral sciences 2nd ed.* New York: Lawrence Erlbaum Associates.
- 10) 永田 靖・吉田道弘 (1998). 的多重比較法の基礎 東京: サイエンティスト社.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① Teramoto, T., Hirose, T., & Bakeman, R. A study of the validity of the Japanese Nursing Child Assessment Teaching Scale (JNCATS) utilizing sequential analysis: A second analysis of mother-child teaching interaction. *Journal of Medical and Dental Sciences*, **57**, 209-220. 2010. (査読有)

[学会発表] (計 10 件)

- ① 寺本妙子, 廣瀬たい子, 岡光基子, 他. 親子相互作用アセスメント尺度 JNCATS を用いた専門家支援: 研究・実践支援ネットワークの構築. 第 57 回日本小児保健学会, 2010 年 9 月. 新潟
- ② 村松三智, 廣瀬たい子, 寺本妙子, 岡光基子. 乳児後期の離乳食場面の分析: 母子相互作用と育児ストレスとの関連. 乳幼児保健学会第 4 回学術集会, 2010 年 10 月. 北海道
- ③ 太田遥香, 長 優紀子, 廣瀬たい子, 寺本妙子, 岡光基子. 早産児生後 24 か月時の発達と遊び場面の母子相互作用. 乳幼児保健学会第 4 回学術集会, 2010 年 10 月.
- ④ 森脇智子, 川崎裕美, 秀島千晴, 三国久美, 廣瀬たい子, 木浪智佳子, 澤田裕美, 辻 美穂, 寺本妙子. つどいの広場に参加する母親に対する JNCATS 利用の試み. 乳幼児保健学会第 4 回学術集会, 2010 年 10 月.
- ⑤ 秀島千晴, 川崎裕美, 森脇智子, 三国久美, 廣瀬たい子, 木浪智佳子, 澤田裕美, 辻 美

穂, 寺本妙子. 「つどいの広場」に参加する母親の育児不安とネットワークに関する検討. 乳幼児保健学会第 4 回学術集会, 2010 年 10 月. 北海道

- ⑥ 長 優紀子, 廣瀬たい子, 富田直子, 白川園子, 永吉美智枝, 河村 秋, 村松三智, 立原美和, 白井雅美, 佐々木昌世, 岡光基子, 寺本妙子. 早産母子に対する早期介入: 乳幼児精神保健の理念に基づく早期訪問支援. 第 30 回日本看護科学学会学術集会, 2010 年 12 月. 北海道
- ⑦ 永吉美智枝, 廣瀬たい子, 丸 光恵, 寺本妙子, 河村 秋, 岡光基子, 日野亜紀子. 網膜芽細胞腫の乳幼児と母親の母子相互作用. 第 30 回日本看護科学学会学術集会, 2010 年 12 月. 北海道
- ⑧ 永吉美智枝, 丸 光恵, 寺本妙子, 河村 秋, 岡光基子, 日野亜紀子, 秋田深雪. 網膜芽細胞腫の乳幼児を持つ母親の心理的危機とその要因. 第 8 回日本小児がん看護学会, 2010 年 12 月. 大阪
- ⑨ 永吉美智枝, 丸 光恵, 寺本妙子, 河村 秋, 岡光基子, 秋田深雪, 日野亜紀子. 網膜芽細胞腫の乳幼児を持つ母親の育児ストレス. 第 8 回日本小児がん看護学会, 2010 年 12 月. 大阪
- ⑩ 森脇智子, 川崎裕美, 山下理子, 三国久美, 廣瀬たい子, 木浪智佳子, 澤田優美, 寺本妙子. つどいの広場を利用する母子の児の成長に伴う NCATS 得点の変化. 乳幼児保健学会第 5 回学術集会, 2011 年 10 月. 東京

[その他]

ホームページ等

<http://jncast.cf-n.org/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

寺本 妙子 (TERAMOTO TAEKO)
日本橋学館大学・リベラルアーツ学部・人間心理学科・講師
研究者番号: 20422488

(2) 研究分担者

廣瀬 たい子 (HIROSE TAIKO)
東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授
研究者番号: 10156713

岡光 基子 (OKAMITSU MOTOKO)
東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・助教
研究者番号: 20285448